

+信州おもしろ

# 達人訪ねて

## 見聞きした魅力 手描きの絵地図で紹介

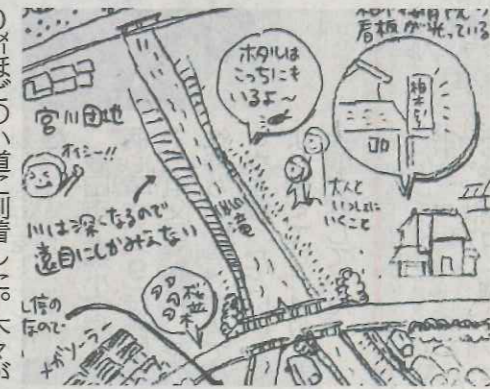
グラフィックデザイナー 江村 康子さん (41) = 佐久市

「面白いと思ったらとにかく逃さない」

# 地域の「お気に入り」探し

「この水路はホテルがたぐさん!」「浅間山が見える絶景ポイント!」。ほのぼのとした手描きのイラスト。丸みを帯びた柔らかい文字でコメントが添えられた絵地図は、近所で見つけた「お気に入り」の情報が盛りだくさんだ。佐久市根岸のグラフィックデザイナー江村康子さん(41)が手掛けた。手描きの絵地図のPRや普及に取り組む全国のデザイナーらでつくる団体「手書き地図推進委員会」(事務局・神奈川県藤沢市)の創設メンバーの一人。地域を歩き回り、住民との会話も通じて見聞きした地域の魅力を巧みに絵地図にまとめる。

7月下旬、江村さんは鉛筆とデジタルカメラ、道路だけを記した地図を手に、近所の子ども数人と自宅周辺を散策。雑木林の近くを通る20



江村さんが近所を散策して作った絵地図

0ほどの小道に到着した。木々が日陰をつくり、夏の暑間でも涼しいこの場所で、絵地図に欠かせない「お気に入り」探しを開始した。

「カブトムシだ」「カニがいるよ」。はしゃぐ子どもたちの傍らで江村さんはカメラで撮影し、すらすらとスケッチする。「面白いと思ったらとにかく逃さない」のがこだわり。道

端の草木、目の前を横切ったトンボやチョウなど、さまざまなものでも「奇妙な形」「色がきれい」などの特徴をつかんで地図に描き込む。「いくありふれたものでも誰かを引きつけられる」と絵地図の醍醐味を語る。

「目で誰が見ても伝わるように描く」がモットー。シンプルだが形や特徴を強調し、目を引くイラストにこだわらる。日頃のデザインで培った経験を生かし、コメントも短く読みやすくする。スケッチを基に色鉛筆や画像処理ソフトで色付けし、絵地図が完成。これまで佐久市や小諸市など県内にどまらず、北海道や茨城県など県外の自治体の観光パンフレットも手掛けた。「『地図に載っていた場所がとも良かった』などの声を聞き、すごく励みになる」

新潟県長岡市出身。群馬県立女子

大で美術史、製図、デッサンを学んだ。結婚を機に2004年、佐久市へ移住した。長男を育てながら印刷会社で働き、長女の出産を機に11年に独立。自宅でデザインの仕事をしている。

絵地図作りを始めたのは3年前。友人が佐久市へ遊びに来た際、イラスト付きの地図で近所を紹介した。友人から後日「すごく良いお店だった」と思われ反響があった。「地元の当たり前が、外の人には新鮮に映る」と感じ、絵地図を通して表現を追求し始めた。同じ頃、デザイナー仲間と結成した手書き地図推進委では県外で講師も務める。

推進委の活動で昨年、遠山郷(飯田市上村・南信濃)の若者たちと一緒に絵地図作りに取り組みしている。地元の伝承などを盛り込み「地元ってこんな楽しい場所だったのか」と、地図作りを通じて知ってほしい。



子どもたちと自宅の周辺を散策し、地図にイラストを描き入れる江村さん(北沢博臣撮影)

### 地図作りの視点生かしたい

周囲は田んぼ、南西に雑木林。見晴らしは良く、北に浅間山を望むことができるが、特筆すべきものはあまり見当たらない。江村さんの散策に同行したが、「情報」が集まる場所へ行く普段の取材とは異なる条件。どんなものが見

つけられるだろうか。期待と不安が入り交じっていた。

「コンクリートに動物の足跡がある。タヌキかな、鹿かな」。足元にまで目を向け、ささいなことを見逃さない。

雑木林では羽を休める国蝶、オオムラサキを発見。「何の変哲もない」と思っていた場所で、驚きがたぐさんあった。

記者は日頃、佐久市内を回っているが、知らないことが

まだまだたくさんあると痛感した。ごく身近な点に目を向けるのは取材でも大切な姿勢だ。地図作りの視点を地域の魅力や課題発掘に生かしたい。

(吉野 貴哲)